

令和4年度 第2回奈良市移動等円滑化促進協議会会議録

開催日時	令和5年1月19日(木) 14時から16時まで		
開催場所	奈良市役所 中央棟地階 B1会議室		
出席者	委員	三星委員、室崎委員、矢野委員、島田委員、松本委員、元山委員、金野委員、紀平委員、高橋委員、山本委員、高松委員(代理)、川嶋委員(代理)、西本委員、服部委員(代理)、朝山委員(代理)山野委員(代理)、岡田委員(代理)、中村委員、宮井委員、堀川委員、吉田委員、嵯峨委員、木村委員、梅田委員【計24人出席】	
	事務局	都市整備部：大井次長 交通バリアフリー推進課：池部課長、山地課長補佐、藤田主任、西窪主務、吉村主事	
開催形態	公開(傍聴人 1人)	担当課	都市整備部 交通バリアフリー推進課
議題 又は 案件	<ul style="list-style-type: none"> ・最新のバリアフリー情報(近畿運輸局 バリアフリー推進課 清水専門官) ・奈良市バリアフリー基本構想の改定について ・奈良市踏切道バリアフリー推進ワーキンググループの設置について ・最近の関西におけるユニバーサルデザインと当事者参加の動向 		
決定又は取り 纏め事項	<p>奈良市バリアフリー基本構想の改定について、重点整備地区の拡充等の方針案に対して了解を得た。</p> <p>奈良市踏切道バリアフリー推進ワーキンググループの設置について了解を得た。</p>		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
<p>1. 開会・あいさつ</p> <p>2. 最新のバリアフリー情報</p> <p>島田委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これらのシステムはほとんどスマホのアプリで動かせるものになっていると思うが、視覚障害者でスマホを使いこなせる人はあまりいない。歩きながらスマホを使うのはかなりの技術と危険を伴うものであり、困難であると思う。 ・トイレのことだが、3か月前から盲導犬を連れ歩いており、盲導犬と一緒にいる時は多機能トイレ、バリアフリートイレをよく利用するが、使いたい時に使えず、困ることが多々ある。利用者には健康そうな方もいて、マナーが徹底されれば良いと感じている。 <p>清水専門官</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重なご意見を頂戴した。啓発ポスター等で呼びかけを行ったり、名称を多機能からバリアフリートイレに変更を呼び掛ける等の対応を図っている。最初の歩きながらスマホを使いこなせないという意見があったが、1つの課題として今後、なんらか対応していきたい。 			

松本委員

- ・聴覚障害者にとって AED は音声の説明が聞こえないので、聞こえない人にも使えるようにしていただくような対応を取っていただきたい。

清水専門官

- ・直接の関係省庁ではないが、ご意見は承った。関係する省庁に渡せるように対応したい。

三星会長

- ・清水専門官の所属する国土交通省近畿運輸局でされているブロック会議がある。ご説明いただきたい。

清水専門官

- ・元々前身となるものがあつたが、移動等円滑化評価会議というのが立ち上がった。全国で 10 ブロック、毎年度 1 回の開催となっており、学識の先生方、施設管理者、当事者の方、自治体の皆様で構成され、約 30 人からなる。1 番に当事者感覚を重んじて取り組んでおり、当事者の声に沿って様々な取り組みをしており、バリアフリーに関わることを強化している。現在は、例えば関西空港のイノベーションを分科会メンバーが参画して当事者目線のイノベーションを進めていくという状況である。
- ・まもなく 2025 年の万博がやってくるが、整備のガイドライン作成にも分科会メンバーがいらせてもらっている。
- ・それ以外にも分科会の提案事業として「フェリーさんふらわあ」を乗船調査し、当事者と九州の分科会で意見交換する取り組みをしたり、今年度はバリアフリー啓発教室を関西空港でも行った。関西空港に乗り入れている交通事業者を中心に当事者との意見交換、ロールプレイ、バリアフリー対応、エレベーターや UD タクシー等、当事者参画でこういった取り組みを展開している。

三星会長

- ・この仕事をしていて思うのが、技術屋は前のめりで面白いしやりたいしきつと役に立つだろうという信念でやるが、高齢者の大半はスマホを使いこなせていない。便利なアプリはあるが、使いこなせるのは少数派である。一番基本となる点字ブロックに関して、まだまだ弱い。市役所前の歩道は点字ブロックが引かれているが、建築物になるとまだまだである。建築物は現在のルールだと入口の案内まで引いて、あとは人手になる。
- ・聴覚障害に関して、世界ではあらゆる情報は音で聞き、目で見ることができる。これは例外がない方向に進んでいるが、なかなか徹底していない。
- ・国の会議だと事前資料で点字資料を用意したり、万博の資料も模型を作って、目の不自由な方と確かめあったりしている。先進的な取り組みではあるが、現実の場になるとそうはならない。

3. 議題

①奈良市バリアフリー基本構想の改定について

三星会長

- ・基本構想は事業化がはっきり見えているものに関して、短期、中期、長期に分けて事業化に向けて計画を作っていく。事業化がまだ見えないものについては作りにくかった。そこで、法改正によりバリアフリー促進地区（移動等円滑化促進地区）をつくった。基本構想とは違い方針なので、自由にこういうことをやっていくとうたえる。事業化に至るものについては基本構想、事業化までに至らないものについては促進の方針、バリアフリーマスタープランとなる。
- ・それを踏まえて提案いただいたのが、全ての駅で基本構想やマスタープランをつくるということである。それでよろしいか。新しい地区の2地区もここで決めるのか。

事務局

- ・各団体からヒアリングやアンケート、地域住民からの要望、委員からのご意見により事務局でとりまとめ、来年度の協議会で案を作成し決めていきたい。

金野委員

- ・連合会の会長会議で言われるのは、バリアフリー基本構想を作ったのは観光客のためだ。JR奈良駅・近鉄奈良駅周辺地区をエリアに決めたときにそういう声がたくさん出ていた。奈良市民のためのバリアフリーかという問いかけがたくさん出ていたが、今日の話で今後全ての駅を対象にということになってくると、安心されると思う。令和5年度以降の計画の話があったが、令和5年度の2駅の提案をさせていただきたい。
- ・皆さんから出ている声の中で、一つ目は新大宮駅。理由は大阪への通勤客の増加や市役所に来られる方が利用される、特に西側から来られる方は新大宮駅を利用されるということがある。またミ・ナーラに来られるお客さんがシャトルバスも出ているので利用されるということもあり、新大宮駅を早急にという要望がある。
- ・2つ目が高の原駅。特にショッピングセンターもあり、京都府側、木津川市、精華町を含めてその駅を利用するという人が多いので、もし希望を出せるというなら、この2駅をお願いしたいという意見を聞いているので伝えておく。

三星会長

- ・大変前向きな意見をありがとうございます。今日の時点で議論はしませんが、今の具体的な駅名を含めてどうするのか次回の協議会で決めていくということか。

事務局

- ・協議会后に今年度中に各委員の皆様から金野委員がおっしゃっていただいたようにこの駅を優先的にした方がよいのではないかというご意見がありましたら、交通バリアフリー推進課までお声がけいただければ、その意見をとりまとめ、協議会の場でこういう意見があったので、この順番で設定するという案を作成したいと考えている。

川嶋委員（代理）

- ・三星会長が先ほどおっしゃったとおり事業化が見えているものについては特定事業計画を立てるとのことなので、事業化がみえてないものについては基本構想ではなく方針、マスタープランになるということか。

三星会長

- ・そういう要素は当然出てくる。しかし、事業化が見えないからといって放っておくと、この駅をどうするのかという意見が必ず出てくる。その時はマスタープランとしてまとめていくことになるかと思う。見える所を優先していくという地区選定の時もそういう要素がある。
- ・エレベーター設置ができない時は長期課題としてあげておくというやり方もある。
- ・事務局案のとおり次回から地区選定を進めていくという方向で了承を得た。

三星会長

- ・本市の特徴である寺社仏閣、京都よりも古い本市でバリアフリーをどう進めるのかは全国的にも注目されている。基本構想を作ったときに東大寺の方をお招きして意見を聞いたりした。優れた取り組みを寺社仏閣の方に参考にさせていただき、できることをして貰えたらという意図で取り組みをまとめた資料集を作成した。この資料集も年が経つごとに他にもいいものが出来ているのでそろそろまた作ってもいいかなと思う。基本構想の改定と並行にすすめてもいってもよいかと思う。
- ・自治会の避難訓練においても、自治体によっては実施しているところもあるが、体の不自由な方も含めて避難訓練をしたり、車椅子の方をおぶって走ったり、そういう防災面も付け加えておきましょう。

②奈良市踏切道バリアフリー推進ワーキンググループの設置について

三星会長

- ・踏切道についての国の動きだが、国は踏切道のこの問題については喫緊の最重要課題としてやっているところである。

高松委員（代理）

- ・前はエスコートゾーンの話が出たかと思うが、道路管理者の事業として行うことに対して我々は止めることはせず、協力させて貰うと言わせていただいたと思う。
- ・今回はエスコートゾーンを含めてとおっしゃっておられるが、基本的には道路管理者による周辺交通を含めた自動車や歩行者の誘導の計画があり、我々がなにがしかの形で協力するということは分かるが、現地調査というのがあって、初めから立案するところで我々が入ることは普通は行ったことがない。ゼロからみんなで考えていこうという話なのか、事業主体である奈良市がある程度計画を組み立てて、それに対して鉄道側や関係者としての意見を言うていくのかという考えなのか。

事務局

- ・もともと道路事業として計画している場所については、計画をもとに皆様から意見をいただくことになると思うが、今まで踏切の点字ブロックの検討をしたことがないのでゼロスタートになると考えていただいて良い。踏切のほとんどは歩道がない状況で、現地調査をした中で、踏切に誘導してもよいものかも含めて検討していきたい。今までにない試みになるが、皆様が安全安心に行き来できる道路にするために協力いただきたい。

高松委員（代理）

- ・安全安心というのは鉄道事業者としても協力していきたいと思う。踏切道の点字の話がほぼということか。

事務局

- ・点字の話がメインとしてあがってくる。まだ検討を始めているわけではないので、皆様からのご意見をいただきながら手さぐりに行っていきたい。

高松委員（代理）

- ・我々も協力しながら進めていくということで、そういうことも詰めながらということでした。

三星会長

- ・市の方も手探りで近鉄さんと JR さんのご協力をいただきながら進めていくということだが、道路管理者はどうか。

木村委員

- ・道路管理者の立場としては市の方で例えば点字を引いたり、線でゾーンを作ったり色々やり方はあると思うが、物理的に引けない踏切もあったと思う。そんな時に踏切の幅を広げる時の条件とか、我々だけではその踏切を広げられるかどうか決められないし、鉄道事業者だけでも決められないと思う。踏切には施設が付いているので動かせる動かせないがある。現地調査では鉄道事業者にも参加していただければ、広げられないところを広げるような計画をつくるということを経験して検討していくことが出来るので、その辺を一緒に協力しながらやっていけたらと思う。

堀川委員

- ・今回の事故を受け、踏切の安全がピックアップされている。踏切に限らず、狭い歩道も多々ある。踏切が安全になったからといってその周辺道路が安全になっていないというのは新たな問題となるので、我々も道路管理者としてしっかり改善していきたいと思う。

金野委員

- ・ワーキンググループのメンバー構成について、当事者団体も含めているが、出来れば当該踏切の連合会もメンバーにいられていただければありがたい。確かに障害者のための踏切改良のバリアフリーだが様々な問題を当事者から聞いている。ゼロからの計画づくりならば、意見を取り入れて作っていただきたい。

事務局

- ・ありがとうございます。現場調査等、地域の連合会の方にも参加していただけるとのことで、よろしくお願いします。

川嶋委員（代理）

- ・どういったスケジュールで、何回くらいやってと考えているのか。手さぐりというのは理解できるが、事前に調整をしていただきたい。

事務局

- ・事前に参加いただく方には、内容やスケジュールを調整したうえで実施していきたいと考えている。

矢野委員

- ・踏切がなぜ危険かというと、レールの隙間に車椅子の車輪が挟まると一人では動かせない。車椅子は一人の時は踏切を渡らないというのが鉄則である。

事務局

- ・そういった問題を共有する場として非常に有効になると思うので、このワーキンググループで何に困っているのかを共有できれば、それぞれの事業者の立場で解決できることをしていけたらと思う。

島田委員

- ・道路も踏切もまっすぐに歩くのが非常に難しい。踏切の場合は、踏切の端を白杖で確認しながら落ちないように歩く事が多い。踏切と同時に周辺の歩道整備も大事だと思う。踏切だけにブロックを引いていただいたりしても、もう少し広い範囲でまちづくりを考えていただけたらありがたい。周辺住民の方のご意見も大事だと思う。

三星会長

- ・ありがとうございます。皆さんから賛同をいただいた。

4. 報告

①最新の関西におけるユニバーサルデザインと当事者参加の動向

②情報交換、自由討論

室崎副会長

- ・最新のバリアフリー情報に少し補足できればと思う。
- ・LGBTの方のためのオールジェンダーのトイレが整備されるようになっている話についてだが、今徐々に増えてきている。当事者の方から聞いていると、バリアフリートイレばかりだと、バリアフリートイレが必要じゃない人の利用も増える。男女別々のところだと使いづらく、バリアフリートイレの広いトイレだけでなく、普通のトイレも男女共有のオールジェンダーのところにまとめて作ってはどうかという話がある。そうになると、比較的色んな人が使いやすく、気兼ねして使っている人の解決になるのではないかという意見が出ている。防犯的な指摘もあるが一定数の人が使っているなら、人目が出来るので対応できるのではないかという話が出ている。
- ・LGBTの方から話を聞くと、男子トイレの中の個室にも汚物用のゴミ箱が欲しいという声がある。トランスジェンダーの方や、男性でもおむつパッド等、ゴミ箱なら比較的置こうと思えば置けるということもある。新しいニーズに取り組めるところから取り組んでいければいいと思う。
- ・機能分散の取り組みが進んでいるが、色んなトイレができて、自分がどこのトイレを使えばいいのか分からない、一般ブースのどこにあるのか分からない、どんな機能がついているか分からないからとりあえずバリアフリートイレを使うという話も聞く。機能は分散したが、利用が分散しないという課題がある。これからどう分かりやすく見せていくのか考えていく必要があると思う。
- ・いままでは段差（バリア）をなくしていくという話を中心だったが、実際に使えるのか、楽しめるのか、単にゼロにするだけではなく、その人達にとって権利が保証されるのかという視点も整備を進めていくなかで意識していけたらいいと思う。

三星会長

- ・知的障害、精神障害、発達障害の方々にとって床や天井、壁の色やデザインがかなり苦痛であるという方が少なからずいる。羽田空港と成田空港では実際にそういう方々に歩いて貰って、その意見でデザインを修正している。一部の発達障害の方々にとって、特定のデザインに対して強い嫌悪感を感じることもある。
- ・施設の整備の際に障害者から意見を言うところまでは、最近どこでもやっている。最初のコンセプトからしっかりと障害者当事者にも入って貰っている、住民施設に住民に入ってもらっているところはほとんどない。今回の関西空港と万博で最初の段階から当事者感覚で進めているところはこれからのモデルになると思う。

元山委員

- ・性がほとんどない時代なので、どの生活場面でも男性女性別々に使うのではなく、全ての人がうまく上手に使える、そういう空間設置が大事だと理解している。高齢化社会の中で、母親の高齢化に加え、ご夫婦自身の高齢化の中での子育ての現場もまだまだ大変だと思う。
- ・新しい情報を見せていただいたが、移動手段の中で、大きなベビーカーを抱えながら、子供の手を引きながら、特にバスの乗り降りや道路の歩道のアップダウンが非常に厳しいと感じる。

双子や年齢が近い子供を二人同時に結ぶベビーカーも出てきている。そういうサポートもハードを調えるだけでなく、助け合い、サポートし合い、譲り合いだとか、子育て支援という言葉が国からでてきているように、次の世代を大事にするのが基本構想の中にあるということを確認させていただいた。私もいろいろ研究していきたいと思う。

紀平委員

- ・百聞は一見にしかずだと思う。施設の整備に障害者の意見を聞くというのはあたりまえだと思う。民生時代に健常者が目隠しをして歩いてみたが、一步も歩けない。目隠しをして初めて分かった。いろんな障害者の意見を聞くのは結構であるが、我々が目隠しをしてみてもやってみたら実感が体験できる。それが必要だと思う。

高橋委員

- ・観光都市としての奈良市だが、観光施設がない観光都市である。市街地の歩道や階段は奈良市はそんなに進んでいないと思う。その一方、JRや近鉄奈良駅周辺を観光優先地区だから整備するという事は、整備する費用を負担するのは国や奈良県、奈良市である。奈良市の住民は西側に集中していることもあり住民サービスのバランスをとらないといけないと思う。

山本委員

- ・もう少しがんばったらいいのと思うのが情報のバリアフリーについてである。バリアフリー基本構想にも記載されているおもてなしマイスター制度は今どうなっているのかと携帯で検索しても出て来ない。やってきたことがきちんとアウトプットできていないのが非常にもったいないと思う。僕らの世代は何かあれば検索して情報を得ることがある。奈良市のホームページが見にくかったりするので、こういうところでももう少し若い世代の意見も取り込められるように情報を上手にアウトプットしていくことも必要でないかと思う。

矢野委員

- ・せっかく作るなら、使いやすい場所、ものと思う。多目的トイレがたくさんできたがこの頃なくなり、バリアフリートイレという名称になった。健常者が障害者用の駐車場やトイレを使っているの、健常者の方によく理解してもらって、使う人の身になってもらえたらと思う。

西本委員

- ・本日の議題の中の基本構想の改定について、奈良市内の他の駅にも広げていくという話については賛成である。バスであればノンステップバス、タクシーであればユニバーサルデザインタクシーの導入が責務になってくるのだが、コロナ前までは年間20～30両の車両の買い替えをしていたが、コロナ禍により国または県から補助金がでる車両の買い替えしかできず7両とかになっている。県の要綱の中にはバリアフリーの重点整備地区に策定されているところで使うことが条件となっており、今現在奈良市内ではJR奈良駅・近鉄奈良駅周辺地区のみとなっており、そこで使う車両を導入させていただいている。広い奈良市の中で学園前駅周辺が一番乗降が多いが、ノンステップバスを導入していく順番がどうしても重点整備地区からになって

しまうので、整備地区を増やしていくことで、我々のノンステップバス導入の後押しにもなるので、是非他の地区にも進めていただきたい。

服部委員（代理）

- ・ジャパントクシーは車椅子を乗れるように装備するのに10分くらいかかってしまうので、使いづらい。それなら車椅子から降りて座席に乗っていただいて、車椅子を積むという形にした方がいい。時間がかかりすぎて、なんのためのタクシーか分からない。